

# セッションⅡ 現場からの報告と展望 「誰一人取り残さないために —自立と共生の観点から—」

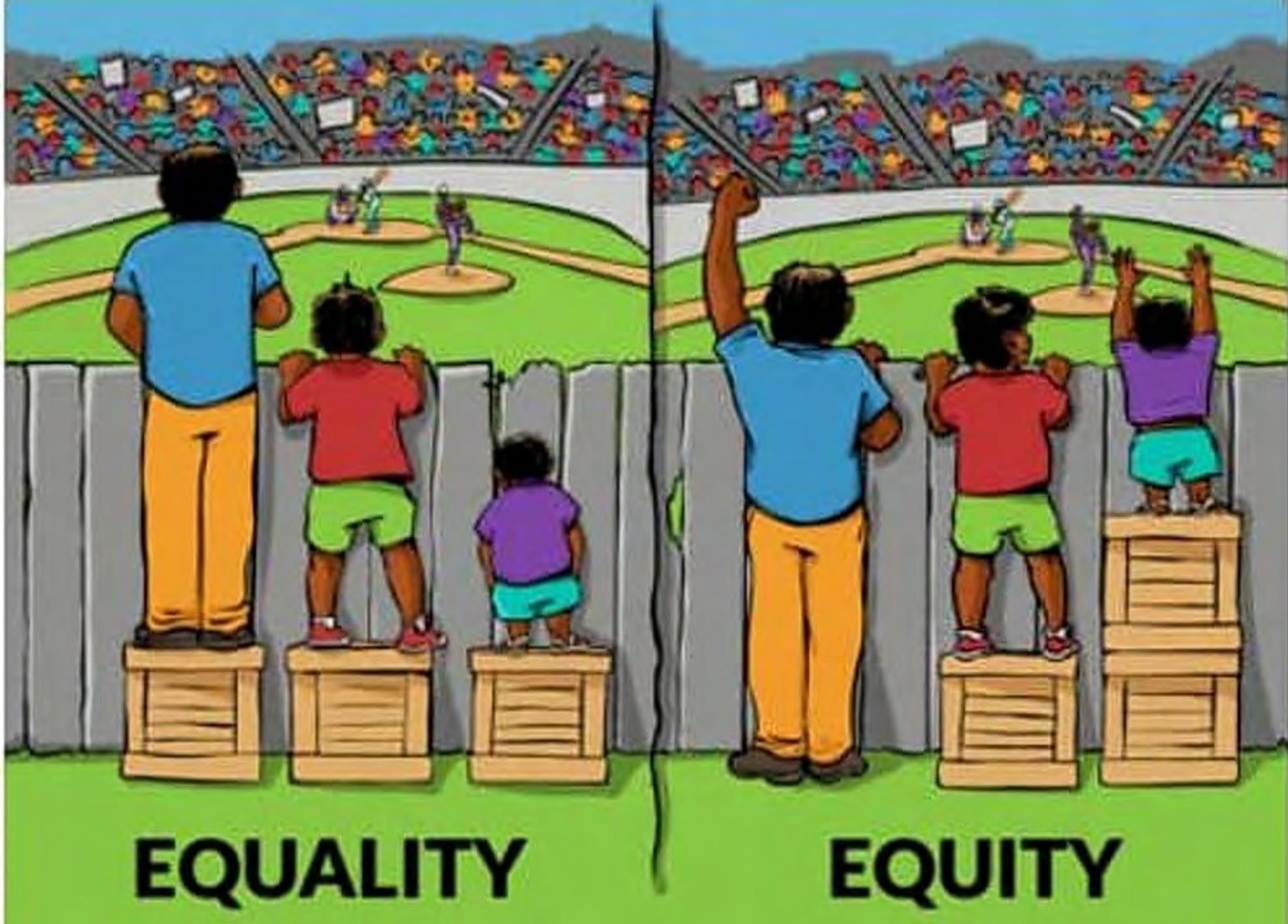
鈴木千鶴子（長崎純心大学）

2021年度（一社）大学女性協会 全国セミナー  
教育・ジェンダー・共生—コロナ後の共生社会を支える教育—

2021.11.14 エッサム神田ホール

# 目次

- はじめに「誰一人取り残さない」とは？
- 教育の現場
- 教育のデジタル化
- デジタル化の学習理論モデル
- “幸福”2030達成に向けて必要な能力とは？
- まとめ



「誰一人取り残さない」  
何が必要？



公平・公正な分配



個別化による  
最適正化

By Adebayo Godfrey James  
<https://www.facebook.com/groups/2606543256266611/user/100006866359064/>

# 教育の現場



# オンライン授業の長期化から見えた問題

## 1. 教育効果の格差 →

- **教員の習熟度**
  - 利用に関する情報・訓練・支援
  - 情報基盤・コスト
  - ソフト面の整備
- **学生の状態と環境**
  - 心理的サポート
  - 通信環境
  - 授業間の調整

# オンライン授業のツールによる問題

- パスワードのセキュリティ管理



2. 深刻な虐め ➡

- 「個」の捉え方
- 子どもの自立の尊重

# 教育のデジタル化

# デジタルとは **digid = 数字**



記録保存で長く

通信で遠くへ

要素を組み合  
わせ加工



個別化への対応



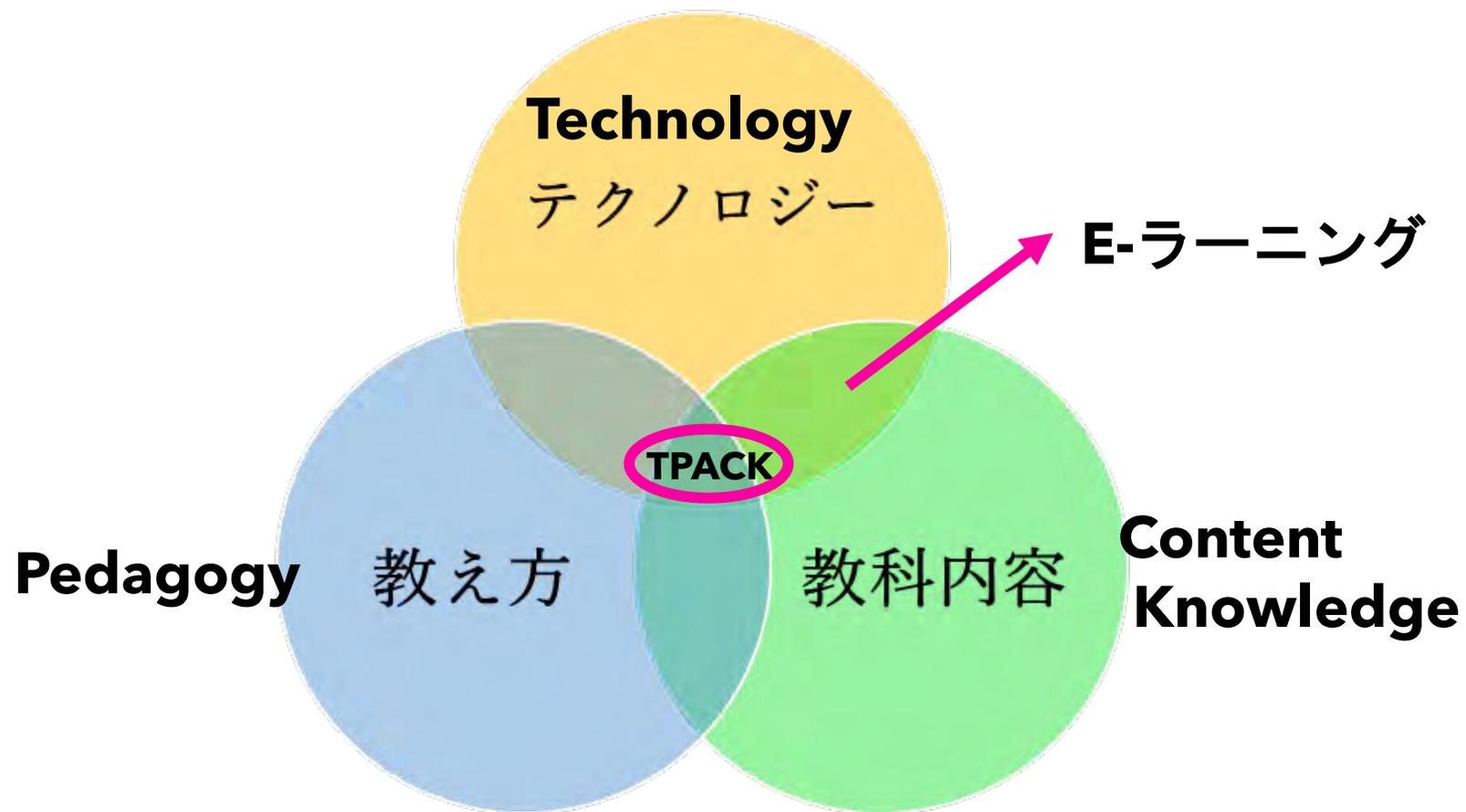
教育・学習の  
改善へ利活用

# 学習理論モデル

# 教育情報化（＝学びのDX）の 学習理論モデル

- TPACK モデル
  - 2009年 Koehler & Mishra
- SAMR モデル
  - 2010年 Ruben R. Puentedura
- DigCompEdu（教育者のデジタル・コンピテンス）モデル
  - 2017 欧州評議会による“ヨーロッパ共通参照枠”
- 子どものデジタル・リテラシー 定義
  - 2019 UNICEF

# TPACK モデル



# SAMR モデル

	Substitution 代替	Augmentation 増強	Modification 変容	Redefinition 再定義
学習者環境	共有端末	1人1台個別所有	複数機材/私有機材持ち込み 0.9人/台	
	5.9→3.0人/台	1.0人/台		
利用頻度	年数回→1日1回	毎日毎授業+授業外の日常		
重点領域	① 分かる授業	② 学習の基盤となる資質・能力 ⑤ 日常利用	③ 学びの個別化・自立化 ④ 知的生産活動 (学びの協働化・社会化)	
活用特徴	授業の小道具 (教具)	日常文具的活用 情報密度を数百倍	知的生産蓄積 学習目標変化	教育課程の 転換

学校現場におけるICT活用レベルを示した「SAMRモデル」  
参考：豊福晋平

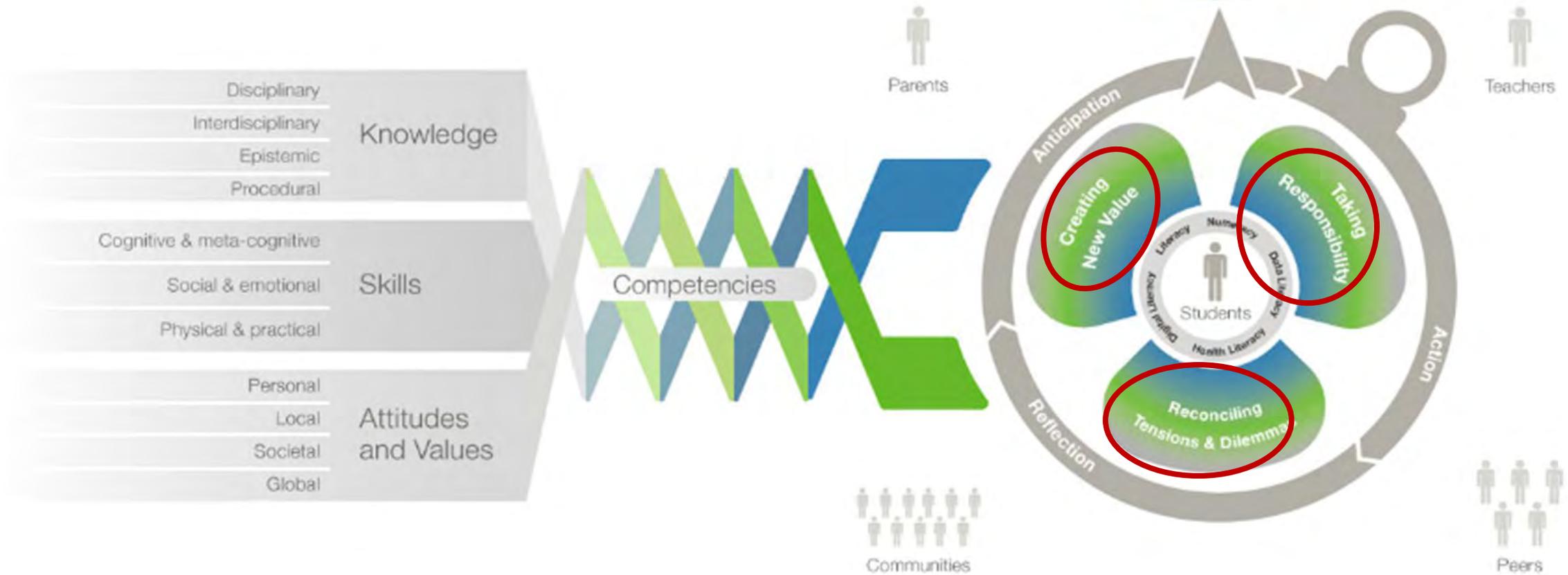
# Well-being2030

## 教育目標

# 教育・能力観の設定

- 21世紀型スキルとして 3C コンピテンシー 全米教育協会
  - 批判的思考力と問題解決力
  - コミュニケーション力と協働力
  - 創造とイノベーション
- OECD Education 2030
  - 新たな価値を創造する力
  - 対立やジレンマを調停する力
  - 責任ある行動をとる力

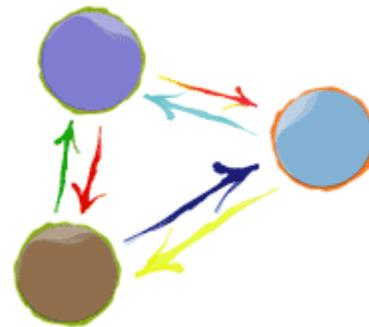
# The OECD Learning Compass (学びの羅針盤)



<https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/>

# 人間と学び

- 人間の特徴の一つ, “学びたい” 生きもの
- 年をとっても “学びたい” が継続する (cf.長谷川 真理子)
- 人との “インターラクション (双方向性交流)” によって学べる



# まとめ

- デジタル・メディアは、一人ひとりの個人と、社会・世界が幸せになるために必要な能力を育てる道具として
  - 教具から文房具へ
  - アクティブラーニング推進の道具として
- 人間は、人とのインターラクションを通して学ぶ
- その学びから、トランスフォーメーション（変革）を



ありがとうございます

鈴木千鶴子

[suzuki.jauw@gmail.com](mailto:suzuki.jauw@gmail.com)